第４回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会 会議録

日　時 ： 令和５年５月 15 日（月）15:00～17:00

〇議題

委員　・施策目標設定の際は市民にもたらす効果が何かを考慮する必要がある。
・他都市の計画目標も参考にするとよい。
・国内では事例はないかもしれないが、地理情報システム（GIS）上に表示した街路樹の CO2 吸収量を計画目標として扱っている事例が海外にある。

委員　補足すると、尼崎市にないけれども他の市にある特色を参考にしたらという意味で、尼崎市と同じものがどれかという意味ではない。西宮市等にはないが、尼崎市にはあったほうがいいというものはあったか。

事務局　西宮市の指標はバリエーション豊かで、その中で子どもの公園の利用頻度というものがあった。尼崎市でも設定してもいいと感じた。

委員　ここにないが書いたほうがいい指標はあったか。この市らしいという特色のある指標はなかったのか。

事務局　東大阪市は尼崎市と面積人口など構成も似ており令和３年度改定なので気になっていたが、思ったよりシンプルだった。近隣市では思ったほど自治体に即した特徴的な指標は少なかった。

委員　情報発信について、他都市は全く設定がなかったが分析はしたのか？

事務局　緑の基本計画の中で情報発信に取り組むという市はあったが、目標設定として数値化している市はなかった。

委員　他都市では全然違う指標があるのではないか。

事務局　市民がどう変わるかという視点の目標（アウトカム指標）を設けている市はあった。

委員　足立区の基本計画では、「知る」という目標がある。もうひとひねりほしい。全国の先進的な事例を探したほうがいい。

委員　豊中市は尼崎市の構成が似ているが、大きな公園があり観察会などを行うボランティア団体も多い。尼崎市にそこまで要求するのは難しいが、小さな公園であっても樹木を変えると生物多様性が生きていく。河川の課と公園の課の連携がとれているか知らないが、河川は特定外来種が多く生物多様性が少なくなる傾向が強い。河川と連携して特定外来種を減らしていく取組をしたほうがいいのではないか。

委員　尼崎市の自然は河川が長くて広く核になることがはっきりとしている。河川に近いところは高木を大きくする、生物多様な環境を作るなど生物多様性に寄与することが分かっている場所でメリハリを付ければ、後々特色のある公園づくりにつながる。

委員　目標設定一覧で、生物と環境の項目の違いが少しわかりづらい。生物多様性の項目の中に希少生物の観察数があるが、尼崎市の中で適切な項目なのか。生物多様性戦略や環境基本計画で重要とされる指標をこちらにも共通で使用したほうがいい。

事務局　希少生物数の項目については環境基本計画や生物多様性戦略とも整合性をはかっ

ていきたい。

委員　環境学習の参加者数について、環境学習や環境保全を推進するボランティア団体の養成機関を増やしていかないと上がらない。指導者を養成する学習を市の方で取り組んでもらえればありがたい。公園観察会の指導者が増えれば回数も増える。

委員　目標数として参加者数のみではなく指導者数や活動団体数を入れるべきだというご指摘である。

事務局　25 ページの取組内容に「新たな担い手を育てる講習会等の実施」のところに記載はしている。指標の項目には載せていないが取組みとしてはやっていく。

委員　観察会を通じて命の大切さを教えるなど、いろんな観点から突っ込んでいける指導者養成していかないといけない。

事務局　環境に限らずみどりの普及啓発を含めて指導者の育成は課題となっている。緑化協会や県など連携しながらやる必要があるため、別に行動計画を作成し連携先を調整し、3 年目にこういうことをするなどアクションプランに記載する。施策目標を参加者数なのか指導者数なのかどれにするのかについては再度検討する。

委員　希少生物の観察数はどのように調査するのか。

事務局　環境部局で生物調査をしておりその数を計上する。

委員　生物多様性の項目は、希少生物の観察数よりも自然観察に参加する市民の数や保護活動に参加する市民数などの方がなじむ気がする。一方で環境の項目は、都市環境の保全のところの効果指標の方が適しているのではないかと思う。CO2,NO2 の吸収量や大気浄化など、計測が難しいので議論は必要だが、項目としてはそちらのほうがあっている。

事務局　生物多様性の話をするとき、大きいエリアと小さいエリアの話を切り分けて考える必要性があると思っている。稀少生物の観察数は尼崎市全体で 10 年後今ある自然環境をどれくらい維持できていたかの指標になりうると考えている。尼崎市全体で 10 年先 20 年先今ある生物との比較を指標にしていきたいと考えている。

委員　生物多様性戦略と違い、本計画は将来像①にある通り、みんなで、みどりを身近に感じ、利用することで、まちの価値がどう高まるのかが重要である。生物についても数が増えるということは戦略の方に任せるとして、こちらでは、身近に触れ合う環境が増えまちの価値が変わる。これに向けてのことが必要である。将来像②の、みんなでみどりについて考え行動し、未来へ継承するというところから、活動数などがある。

また、ローカルルールがあまり入っていない。特色化するときに生物寄りのローカルルールを作ってもいい、子どもが騒いでもいいなど、ローカルルールを作った方が特色を持てるしまちの価値も高まる。ローカルルールをやってもいいよという状況を作ることが公共の仕事である。そのような項目を入れるとみどりの将来像につながる。ローカルルールによる観察学習会の増加など、利用することでまちの価値が高まるのであればそのような指標が必要である。

委員　生物の数ではなくて人々の活動の成果のほうが、生物多様性の指標としていいとい

う意見である。

委員　近隣の公園であじさいまつりを公園でする。お店を出したり子どもの書道を貼りだしたりして、子どもに楽しんでもらい保護者も喜んでもらうという形で公園を利用している。比較的小さい公園だからできることかもしれない。

委員　生物多様性の目標としては、珍しい昆虫が見つかったなどではなく、アジサイをネタにイベントをしている。公園にある自然を活用した取組をカウントしたほうがいいのではないか。

委員　ドングリ銀行というものが他の自治体にあり、ドングリを集めて持っていくと苗木に交換してもらうという制度である。子どもと一緒にやることでドングリの種類など自然と学ぶことがある。子どもが目に見える形で参加でき継続的な活動があれば、尼崎が変わったことがアピールできる。

委員　ドングリ銀行の貯蓄量などは、指標として子どもが自然に注目しているということがわかる。バックヤードが必要になるので大変ではあるが。

委員　緑をただ単に増やすだけではなくて、生物多様性の問題から、緑をどこからでも持ってきていいというのはまずい。21 世紀の森みたいな知見をどんどん増やしていかないといけない。そのような点を考慮して緑を増やしていかないといけない。

委員　尼崎市が新たに公園に植栽するにもルールを設けてはどうか。

事務局　民間と緑化協定する際、あまり外来種を植えないようにという案内をし、在来種をどこまで増やしていけるのかという考えもある。公園の中で新しい樹木に更新するときも同様な考えでしていければと思っている。

委員　21 世紀の森で苗を作っているが、他にも活用できるようにすることが必要である。21 世紀の森だけで活用するのではなく、尼崎市内で活用していければ。市域で育った樹木を使う。

委員　外来種がダメというレベルではなくて、流域で同じものを使用すればよいという指摘である。

事務局　希少種や重要種の保全をしていく取組として、上坂部西公園での緑化公園協会の取組みや 21 世紀の森での取組を継続しつつ、市内にどう展開していくか。

委員　あそこで植えた苗を尼崎市の公園で使うという流通ルートは作れないのか。

事務局　まずは県立公園で 15 万本植えるという目標があり、現在 10 万本植栽されている。外に出すよりかはまずは中という考えが県である。

21 世紀の森は生産基地として大切だという意識は県にもあり、協議会でも話は出ている。引き続き県との調整が図られていくのかと思う。

21 世紀の森では、生物多様性に配慮した地域種を育てているが、その樹木が大面積の公園に植えて成り立つ木、街区公園のような小さな公園に植えて成り立つ木など樹種的なこともあるので、それはこれからの課題だと思っている。

委員　公園、街路樹は環境が悪すぎて、自然林に生えているものを植えても枯れる。さらに街路樹は法律で 4.5m と 2.5m 以下に障害があってはいけないので、大きな樹木を持ってこないといけない。全体的に森化するというよりかは特色を生かして、例え

ばずっと落ち葉が落ちていてもいい公園ができたとしたら、そこではいい森ができる。特色のある公園を拠点にしてじわじわと増やしていくということを書いていけばじわじわ実現するのではないかと思う。

事務局　苗木なので公園で遊んでいると踏みつぶしてしまうこともあるので、先に植える購入木とその下に世代交代の木とで考えていく、そういう使い方になっていくのかと思う。

委員　今後の課題は市で形態を決めるのではなく一部何か試みをすればよいという指摘である。

委員　全体の計画目標で 6 つの満足度について 50%を超えるという目標について、近隣他都市の指標が 50%以上なので 50%以上にすると聞いたが、尼崎市の足元の状況が満足、やや満足の数値が相当低い中で 50%を目指すというのはかなり高い目標である。他都市を見れば足元の状況がそこまで悪くない。多くても 20%くらいのアップ率を目指している中で、すべてのカテゴリーについて 50%達成はかなり厳しいのではないか。

また、5 年後に見直すとあるが、目標を見直すのか施策を追加で見直すのか。どのような方向性なのか。

事務局　国土交通省のデータを基に 50%を設定した。全国約 150 の自治体、約 300 箇所の利用満足度を調査した。街区公園の満足とやや満足が 50%だったため、全国平均においつこうと 50%という数値にした。6 つの細分化した目標について、全体の底上げをしていきたいという思いからこちらも 50%としている。聞き方によって普通がやや満足、やや不満、どちらとも言えないの 3 種類存在するので、普通が満足側なのか不満側なのかというのもある。アンケートを取るときに整理したいと思う。

5 年後の見直しについて、目標の見直しについては変える予定はなく、個別の取組を進捗に応じて変えたり、時代の流れに合わせて新しい取組内容に変えたりしていく。

委員　半年の見直しは、目標は変えずに目標に向かって施策を追加するという考えでよいか。

事務局　そうである。

委員　市全体の緑が残り 4 つの平均がでてくる気がして聞くことではないかと思う。これで達成される大きな目標の満足度を聞くと効果があったかどうか検証される気がする。住みたいまちの満足度など、みどりの将来像に書いている事が重要である。

委員　公園や緑に魅力があるからこの街を選んだといわれるように、公園やみどりは尼崎の誇りであると思う。そういうまちづくりにつながる全体の目標が一番目にあり市全体のみどりよりもそのような目標設定にすべきだ。

委員　施策 1-1 の指標が公園で、施策 1-2 の指標が街路樹でというように、何がうまくいったのか施策に反映させて対応したほうがいい。

事務局　6 ページの関連する市民満足度と関連する取組の番号を示している。他にも行動計画において取組別の目標を設定する。行動計画で設定する施策目標の方が満足度を高めるならば組み換えなども出てくる。施策目標 9 項目だけでなく各取組ごとに何を目標にして一番満足度に繋がりやすいものをここにピックアップしていくやり方もあるのかと考えている。

委員　行動計画はいつ作成するのか

事務局　今年度の後半から終盤に作成する。

委員　モデル事業は考えないのか。行動計画と計画本編をつなぐようなものである。施策横断ですごく効果があるとか、大きな公園、小さな公園、街路樹、主な緑地でチャレンジしたいことを書くと市民としてはわかりやすい。やりたい人とできる環境がうまくマッチするばかりではないので、モデルとして環境が整っていてやる人もいて行政もアピールがしやすいと弾みがつくと思う。

事務局　公園の機能分担について、同じような機能のある公園が複数ある地域について、市でピックアップして地域の人たちにどのようにアクションしていくか地域を取りまとめしている課もあるので調整してやっていきたい。

委員　「新」で書いている施策はやはりモデル事業があったほうがいいと思う。

委員　今回の新規施策で、機能分担していく公園についてワークショップをやっていくが、パークマネジメントプランは作らないのか。アクションプランに組み込まれているのか。

事務局　マスタープランと個別施策の中間部分というイメージの、尼崎市全体の公園管理運営を見据えた計画ということか。

委員　住民も職員もはじめてのやり方なので、どういう方針でやっていくのかがわからない。方針、やり方が詳細に書いており、すでに尼崎市でやっている事例や成功している他都市の事例が入っていたりする。

事務局　今作成しているみどりの基本計画が大きな方針となり、モデル事業をいくつか見ながら事例を集めていかないといけない。パークマネジメントプランも中途半端なものしか作れないと思う。実践しながらトライアンドエラーしながら他都市の事例もみつつ試行錯誤していく。

事務局　市として公園の利活用の見直しで社会実験的に手を付けて、うまく提案を生かしうまくいかなかったところは次どうするかも含めて次の計画を作りながら考えるというのが正直なところである。他都市の真似というよりも、市の中で積み重なっていくなかでやっていくという形になると思う。

委員　特に職員の立場に立った時、新しいマスタープランが出たと思ったら、「何か変わったことやらされているな」という状況にしないでほしい。その時にマネジメントプランがなくてトライアンドエラーでどんどんやっていくというものいい。その新しい部署を作ってやるというもの素敵なことだと思う。

事務局　みどりの基本計画は網羅的に書いて、アクションプランでチャンスのある公園に対してトライアンドエラーをかけていけるような仕組みを見せてあげないと、市民にとって 10 年間何も変わらなかったとなるので工夫が必要である。公園の使い勝手を良くしようというのは市の強い思いもあるので、今回の計画の中でも公園の利活用に着目してもう少し伝わるようになれば。施策目標もローカルルールができた公園の数とかあってもいいのかと思う。市も応援するし地域の人も大手を振ってやっていただけるようなものを書かないといけない。

また、子どもがとっつきやすいものをしないと、西宮市の子どもの公園利用頻度も何か目的があって子どもも見ていると思うので、そこを掘り起こせることを書いたらいいのかと思う。次の専門部会で今回ご指摘いただいたところ、満足度も市全体の緑に合うような施策がなかったりしているので、ピンポイントで反映できるようなものを検討したいと思っているので、近隣市以外の他都市の成果目標を見ながらもう一度組み換えをしたいと思う。

委員　足立区は健康と高齢者福祉について、健康遊具を置くだけではなく、保健所が健康体操をする拠点を公園の中に作るとか朝のラジオ体操をもっと後押しするとか、子どもが小さいときのお母さんの健康や精神的なつながりを後押しすることも、公園の施策ではないけれども周辺施策と協力してできればいい。

委員　例えば、高齢化で脳梗塞になった方が公園を利用される。その時に公園に鉄棒みたいなものが二つあれば歩く補助になる。そういうものがあれば高齢者向けの機能分担の公園だと特徴を持った公園になる。使われていない公園があればそのように変えていければと思う。

委員　尼崎は街路が狭い。そこに大きな木を植えると根上がりする。狭い街路には街路樹はなくてもいいのではないか。それか街路を広げるかきちんと対策しないとお年寄りや子どもにとって危ない。

事務局　生活道路の街路樹は間引き、シンボルロードには整備するなど街路樹についてもメリハリをつけていく。

以　上